

2008年2月18日(月)
大和インベストメント コンファレンス東京 2008

PASSION
FOR THE
BEST

大和証券グループの現状と今後の方針

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 鈴木 茂晴

本資料は、2007年度第3四半期の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2008年2月18日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

目 次

大和証券グループについて	．．．．	3
個人向け(リテール)証券業務		
大和証券	．．．．	7
法人向け(ホールセール)証券業務		
大和証券SMBC	．．．．	17
資産運用業務		
大和投資信託、大和住銀投信投資顧問	．．．．	23
トピックス	．．．．	26
資本政策	．．．．	30

大和証券グループについて

大和証券グループ本社

Daiwa Securities Group Inc.

会社名 株式会社大和証券グループ本社

(証券コード: 8601)

創業日 1902年5月1日

設立日 1943年12月27日

代表者 執行役社長 鈴木 茂晴

所在地 東京都千代田区丸の内1-9-1
グラントウキョウ ノースタワー

資本金 1,783億円 (2007年12月末現在)

従業員数 14,797人 (2007年12月末現在、グループ従業員数)

発行済株式数 14億466万株 (2007年12月末現在)



東京駅八重洲北口の
「GranTokyo North Tower」
(グラントウキョウ ノースタワー)

大和証券グループの事業構造

持株会社：大和証券グループ本社

個人向け証券業務
(リテール)

大和証券

法人向け証券業務
(ホールセール)

大和証券SMBC、他

グループコア4事業

資産運用業務
(アセット・マネジメント)

大和投資信託
大和住銀投信投資顧問

投資

大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ
エヌ・アイ・エフSMBCベンチャーズ

グループサポート事業

大和証券ビジネスセンター
大和プロパティ
他

リサーチ、システム、
コンサルティング

大和総研

大和証券グループ 連結決算の概要

(単位:百万円)	FY2007		対'07.2Q 増減率	FY2007	FY2006	前年同期比 増減率	FY2006 累計
	3Q	2Q		3Q累計	3Q累計		
営業収益	215,457	211,712	1.8%	681,153	662,169	2.9%	917,307
純営業収益	121,427	111,563	8.8%	377,059	383,262	-1.6%	526,764
販売費・一般管理費	92,288	91,660	0.7%	277,568	249,490	11.3%	340,372
経常利益	30,511	21,204	43.9%	105,808	142,380	-25.7%	195,415
純利益	17,264	14,739	17.1%	59,339	66,881	-11.3%	92,724
総資産	17,786,335	16,009,537		17,786,335	14,493,949		14,411,265
純資産	1,178,456	1,194,358		1,178,456	1,186,895		1,223,225
自己資本*	893,223	907,597		893,223	897,532		929,525
EPS(円)	12.59	10.63		42.87	49.34		67.90
BPS(円)	651.36	661.84		651.36	643.34		665.98
ROE(年換算)	7.7%	6.4%		8.7%	10.6%		10.8%

* 自己資本＝株主資本＋評価・換算差額等

ROE(年換算)	3Q	3Q累計
大和証券	16.8 %	18.1 %
大和証券SMBC (連結)	2.2 %	3.3 %

個人向け(リテール)証券業務

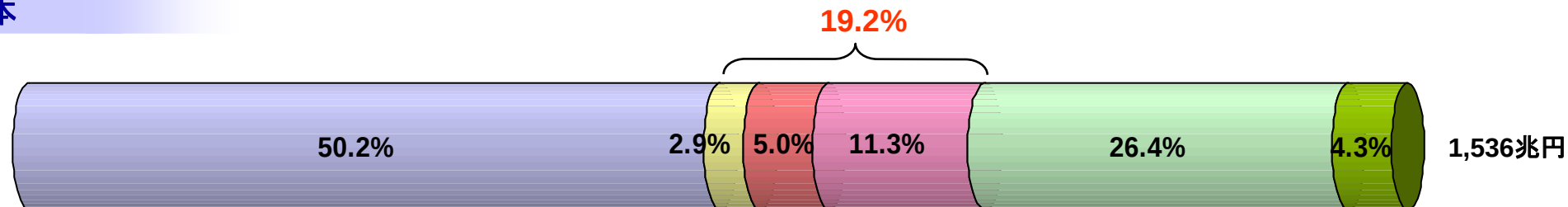
大和証券

Daiwa Securities

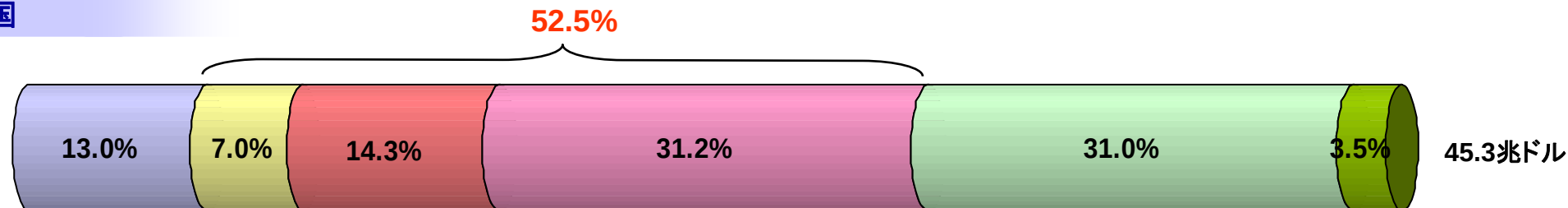
個人金融資産の日米比較

家計金融資産の構成比(2007年9月末)

日本



米国



現金・預金
 債券
 投資信託
 株式・出資金
 保険・年金準備金
 その他計

出所：日本銀行調査統計局

大和証券 「ダイワ・ダイレクト」 独自のサービスを提供

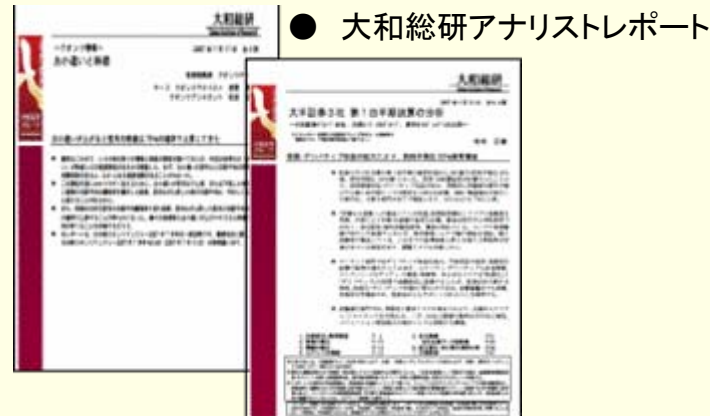
PASSION
FOR THE
BEST

取扱商品拡充による収益の多様化



● オンライン専用ファンド

人気アナリストのレポートが閲覧可能



● 大和総研アナリストレポート

お店でサポート

● 支店でのオンライントレードセミナーの様子



ネットでサポート

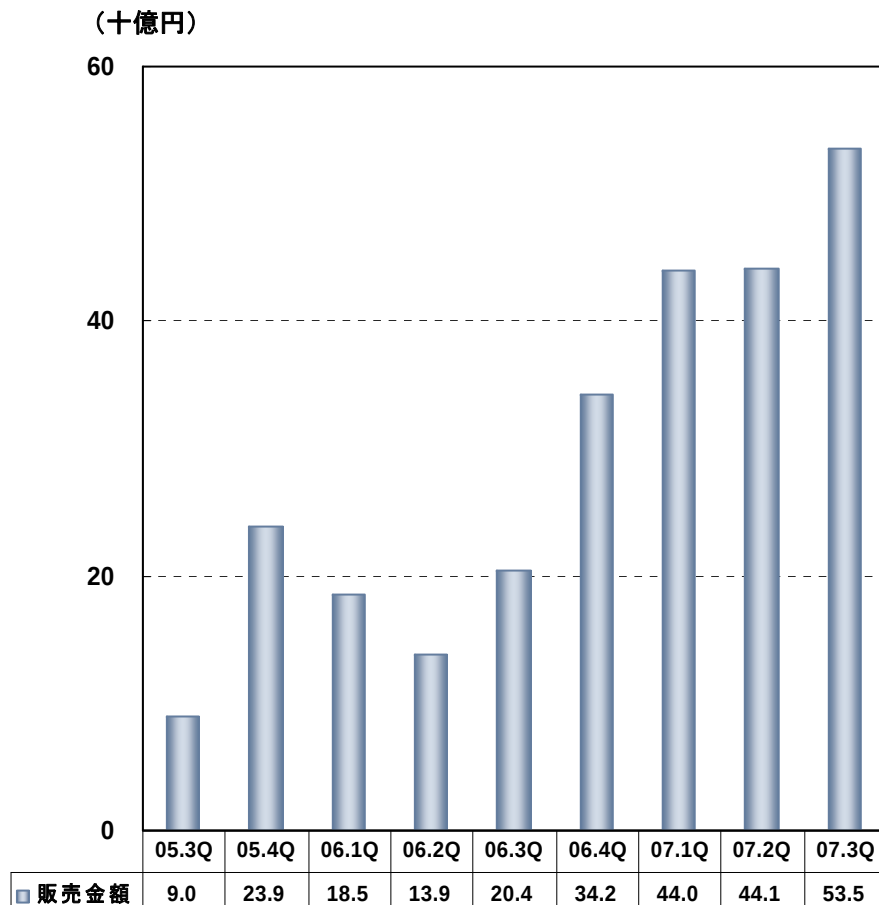
● インターネットライブセミナーの様子



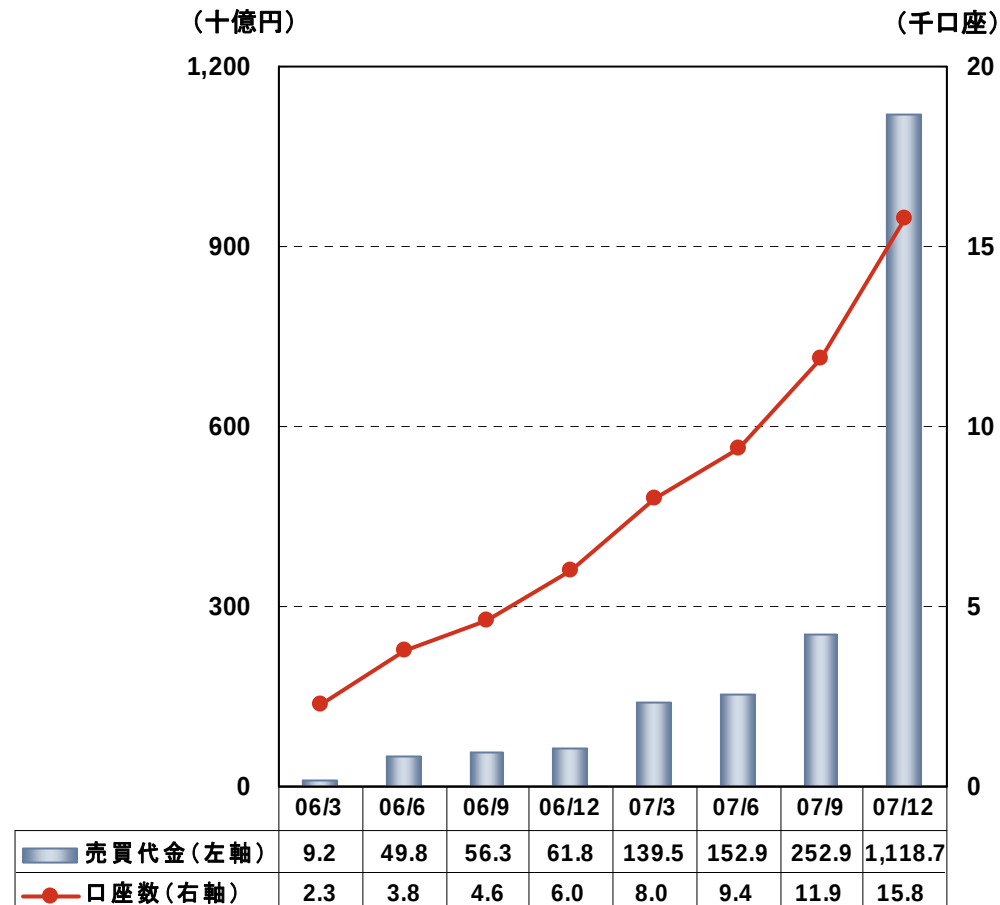
大和証券 「ダイワ・ダイレクト」 サービスの多様化

PASSION
FOR THE
BEST

オンライン株式投資信託販売額の推移



ダイワFX(外国為替証拠金取引) 口座数・売買代金の推移

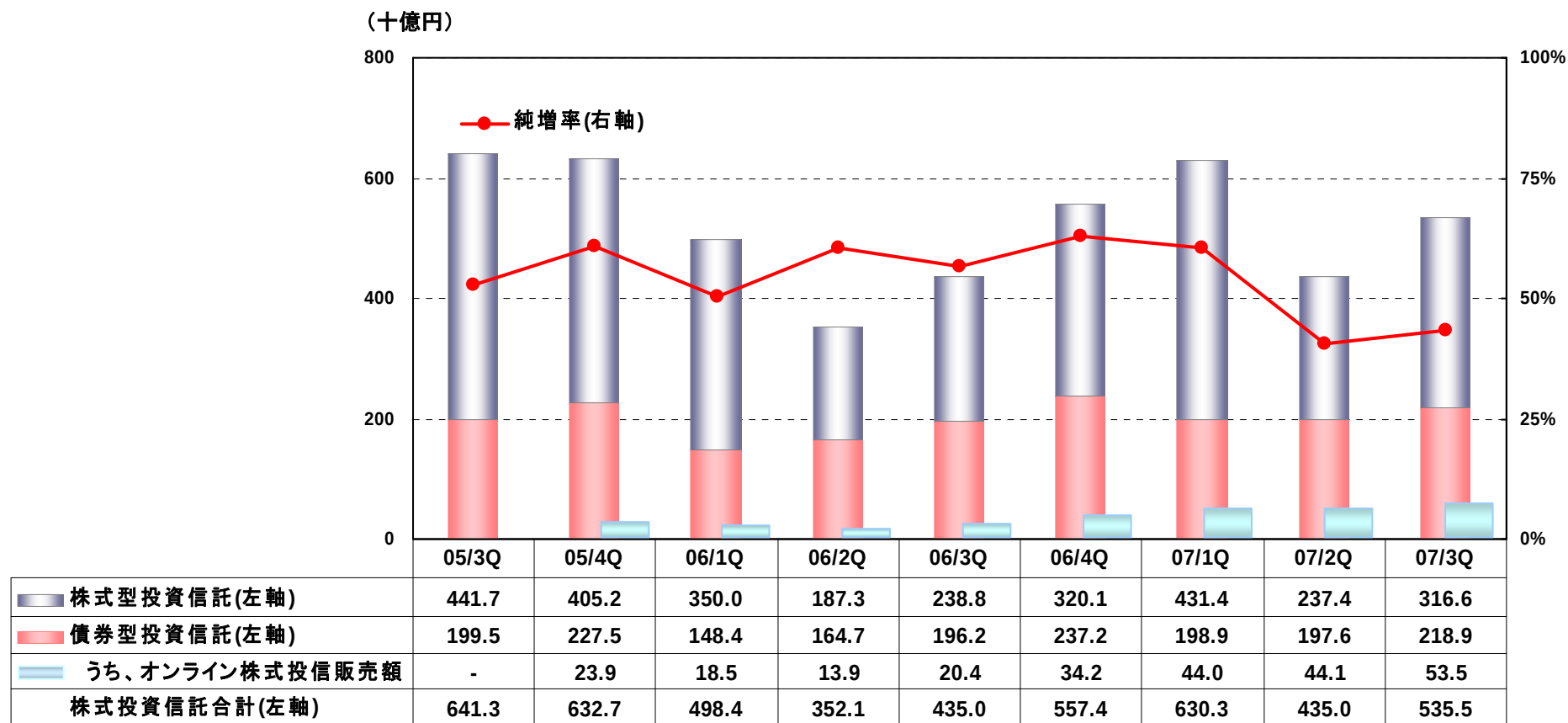


(注) 売買代金は四半期合計

大和証券 株式投資信託の販売状況

PASSION
FOR THE
BEST

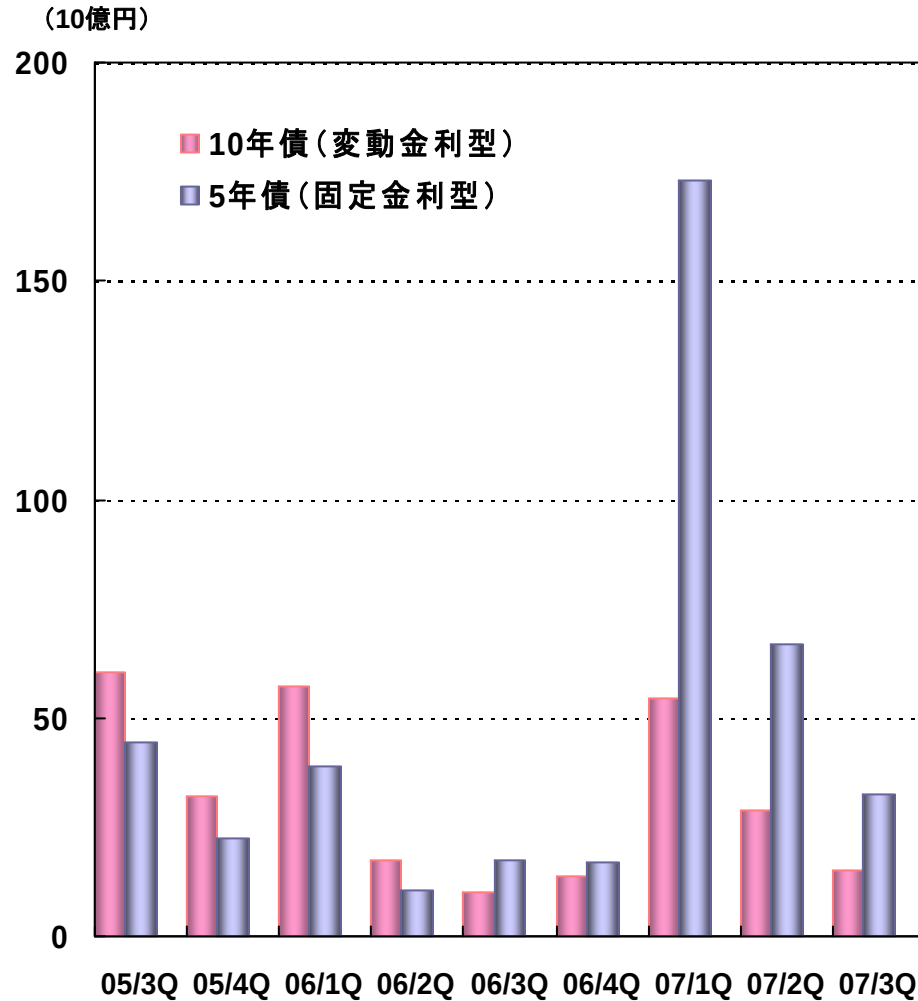
株式投資信託の販売額と純増率



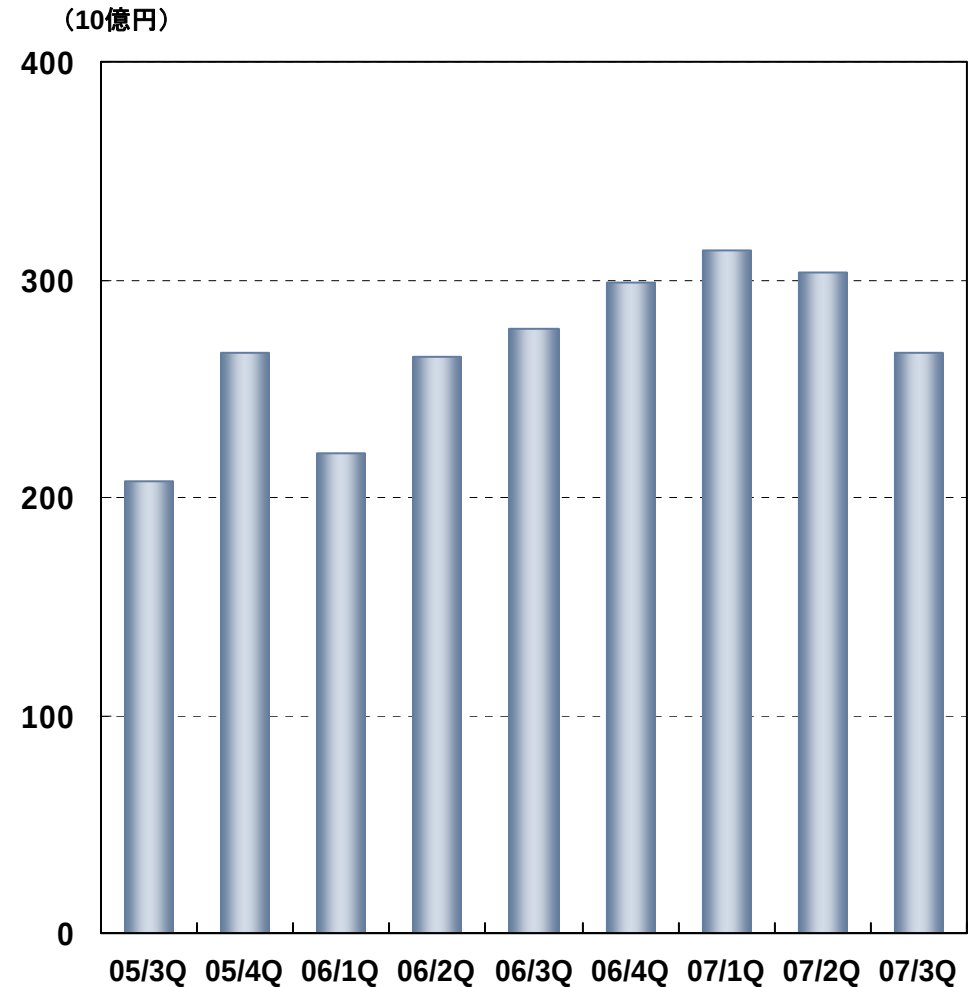
(注) 純増率(%) = $\frac{\text{販売額} - (\text{売却額} + \text{償還額})}{\text{販売額}} \times 100$

大和証券 債券販売の状況

個人向け国債の販売額推移



外貨建債券の販売額推移



SMA分野において業界No.1の地位の維持

ラップ口座 No.1[※]

選ばれて、日本を代表するSMAに。

ダイワSMA

SEPARATELY MANAGED ACCOUNT

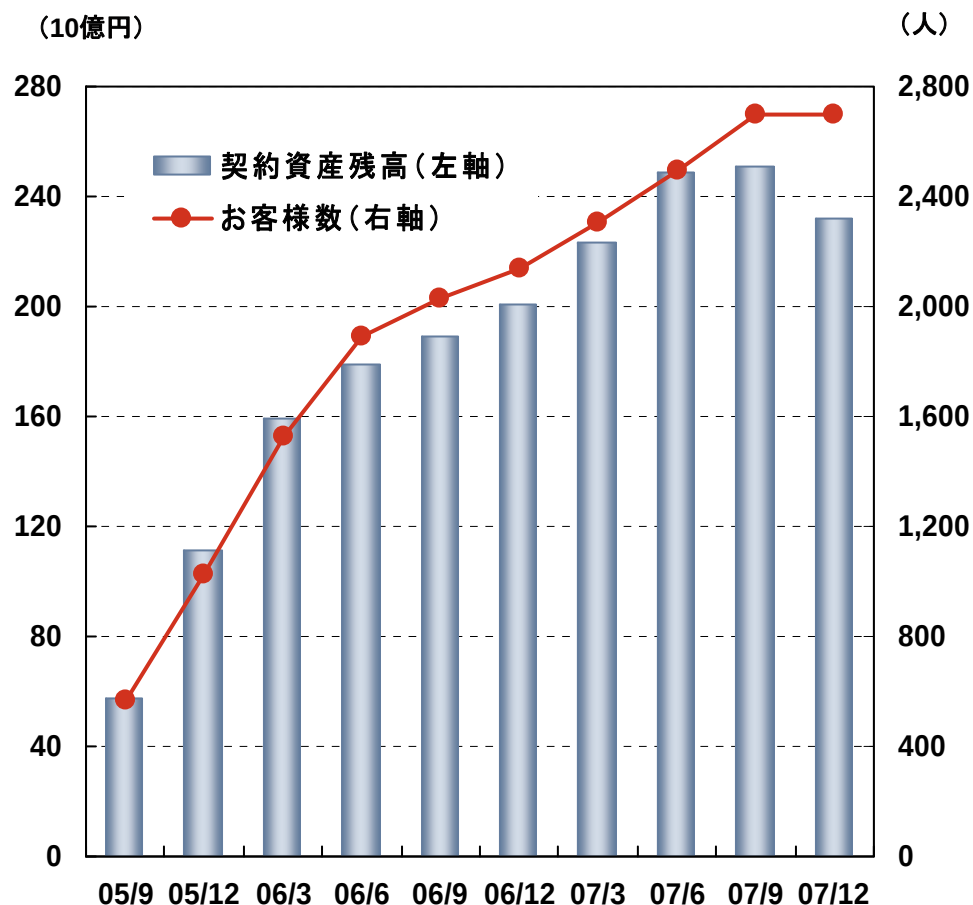


※社団法人 日本証券投資顧問業協会公表資料より大和証券調べ(2007年6月末現在)。

ダイワSMAの今後の展開

1. プロモーションの強化
2. 運用スタイルの拡充
3. サービスの向上

ダイワSMAの状況



大和証券 ダイワファンドラップ サービス開始

PASSION
FOR THE
BEST

ファンドラップにおいても業界No.1の地位獲得へ

ダイワ ファンドラップ
あなたにあった資産運用をプロと二人三脚で。



- 契約金額 500万円以上(1万円単位)
- 契約期間 1年ごとの自動更新
- 投資対象 ファンドラップ専用口座にてダイワファンドラップ専用ファンドに投資
- 手数料 契約資産に応じたフィー体系

「ダイワファンドラップ」の仕組み

1 投資方針の確認

- 「ヒアリングシート」により、投資方針、リスクに関する考え等を確認

2 運用スタイルの提案

- 「ヒアリングシート」の回答をもとに最適な運用スタイルを提案

3 投資一任契約の締結

4 投資一任契約に基づいた運用

5 運用報告とフォロー・アップの充実

- 「ダイワファンドラップ運用報告書」を3カ月ごとに交付

6 投資方針の見直し

- 運用スタイルの変更、増減額が可能
- お客さま専用Webサイトにて運用状況や取引経過の確認も可能



大和証券 ダイワLMS(証券担保ローン)

PASSION
FOR THE
BEST



【ダイワのSATローン(ダイワの証券担保ローン)】

- コンサルティングのお客様向け
大和証券本支店にてお申込みが可能



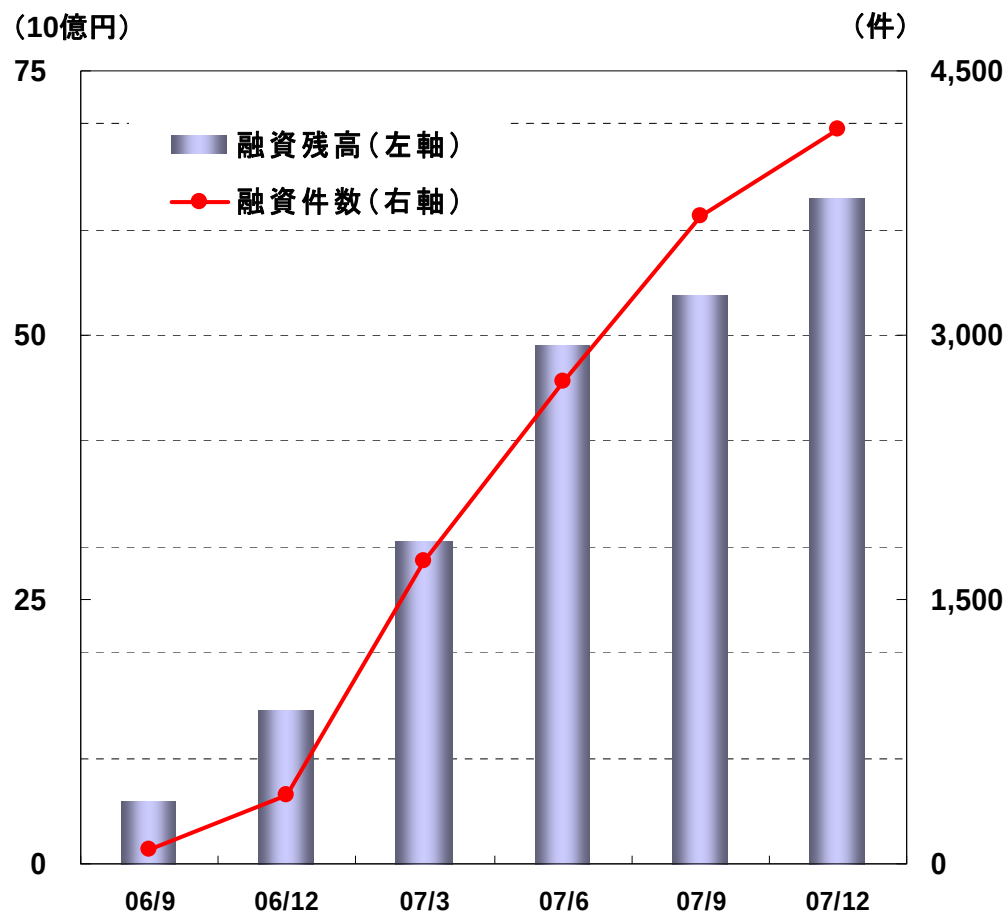
【ダイワのネットローン】

- インターネット取引のお客様向け
インターネット上で手続きが完了し、
平日以外もお申込みが可能

ポイント

1. 手続きがスピーディー
2. 自由返済方式
3. 担保の売買は原則自由

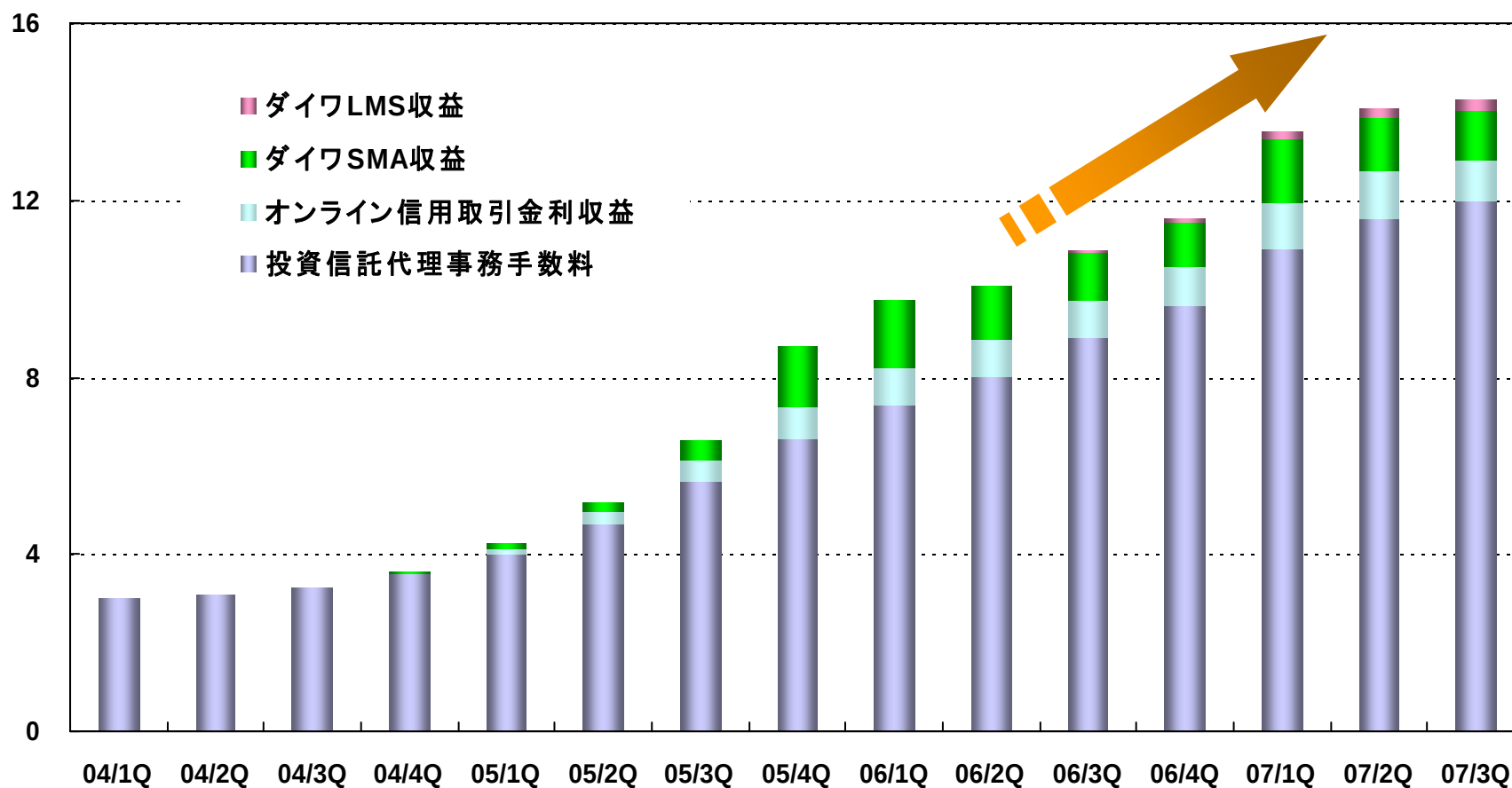
ダイワLMS 融資残高・件数



安定収益は引き続き順調に拡大

大和証券 安定収益

(10億円)



法人向け(ホールセール)証券業務

大和証券SMBC

Daiwa Securities SMBC

大和証券SMBC 主要リーグテーブル

PASSION
FOR THE
BEST

大和証券SMBC 2007年度第3四半期(累計) 主幹事リーグテーブル

	デット総合		エクイティ総合		
		普通社債+ 財投機関債		新規公開	株式公募・売出し
1位	みずほ 16.5%	みずほ 20.7%	野村 41.1%	野村 63.0%	野村 64.1%
2位	大和証券SMBC 16.0%	大和証券SMBC 19.6%	日興シティ 18.0%	JPモルガン 16.9%	大和証券SMBC 16.1%
3位	三菱UFJ 14.0%	野村 19.0%	大和証券SMBC 10.5%	大和証券SMBC 11.7%	日興シティ 9.9%
4位	野村 13.8%	三菱UFJ 18.9%	三菱UFJ 7.1%	新光 2.7%	モルガン・スタンレー 4.4%
5位	日興シティ 9.3%	日興シティ 8.7%	モルガン・スタンレー 5.8%	三菱UFJ 2.4%	みずほ 3.1%

M&Aランキング(1-12月)

M&A	
公表案件/ 取引金額ベース	公表案件/ 取引件数ベース
野村	野村
シティグループ	大和証券SMBC
GCA	MUFG
メリルリンチ	みずほFG
ゴールドマン・サックス	シティグループ

出所: 大和証券SMBC (ABSは日経公社債情報) 2007年4月~2007年12月

デット総合(社債+財投機関債+円建外債+ABS)は条件決定日ベース。エクイティ総合(既公開株式+新規公開株式+国内CB+海外株式+海外CB+第三者割当型スキーム+REIT)は払込日ベース。ただし、新規公開は公開日ベース。共同主幹事については、引受金額に応じて按分。リーグテーブルでの獲得金額をパーセンテージで表記。

9位
大和証券SMBC

出所: トムソンファイナンシャル 2007年1月~12月
「日本企業が関わるアドバイザーリーランキング(AD19)」

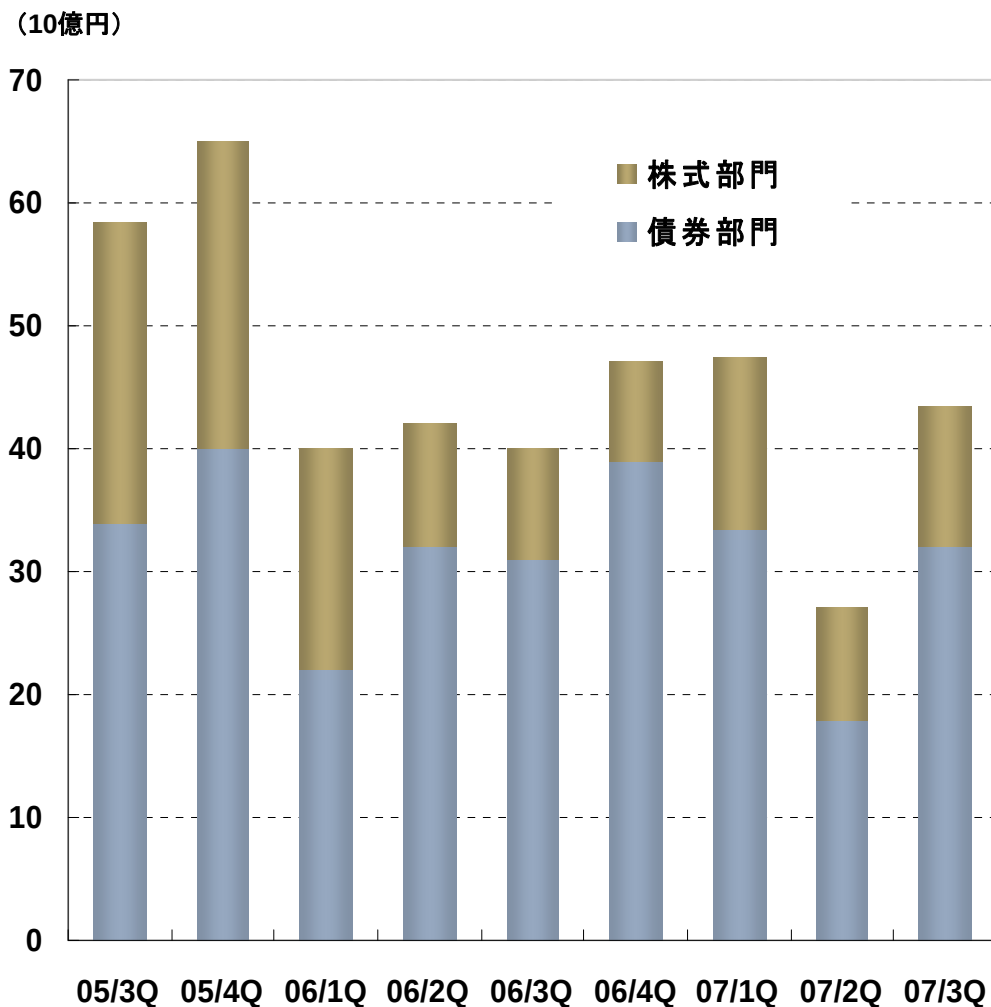
2007年度の象徴的な案件

- エクイティ: 石油資源開発売出し共同主幹事、チャイナ・ボーターIPO、キトーIPO
- デット: 日本たばこ産業普通社債共同主幹事、タイ石油公社サムライ債共同主幹事
- M&A: 三越・伊勢丹の経営統合、三洋信販TOB、SMBCによるOMCカード買収
米Sagent Advisors Inc. : SRIスポーツによる米クリーブランドゴルフ買収
- ストラクチャードファイナンス: 財務省の財政融資資金貸付金の証券化に係るアレンジャー兼事務主幹事に選定

大和証券SMBC トレーディングビジネスの強化

PASSION
FOR THE
BEST

グループ連結 株式・債券部門収益(管理会計ベース*)



トレーディングにおける重要課題

- 収益源の多様化
(グローバル、オルタナティブ、デリバティブ)
- リスクマネジメントの強化

株式部門の主な重点分野

- 執行インフラの強化
- グローバルカバレッジ体制の構築
- 外国株からの収益拡大
- プロップ運用のグローバル展開

債券(金融市場)部門の主な重点分野

- 仕組債販売・デリバティブ取引の拡大
- デリバティブ・トレーディング機能の強化
- 海外ビジネスの強化

5年後の目標イメージ： 3つの「1,000」を目指す

アジア関連収益

現状

2006年度のアジア・オセアニアにおける収益：
約124億円

5年後

アジア関連収益：
年間1,000億円規模

アジアにおける人員数

現状

アジア拠点の人員数(駐在員+現地社員)：
567名(07/12末)

5年後

人員：
1,000名体制

アジアにおける投資額

現状

EMP Daiwa Capital Asia Ltd.への出資

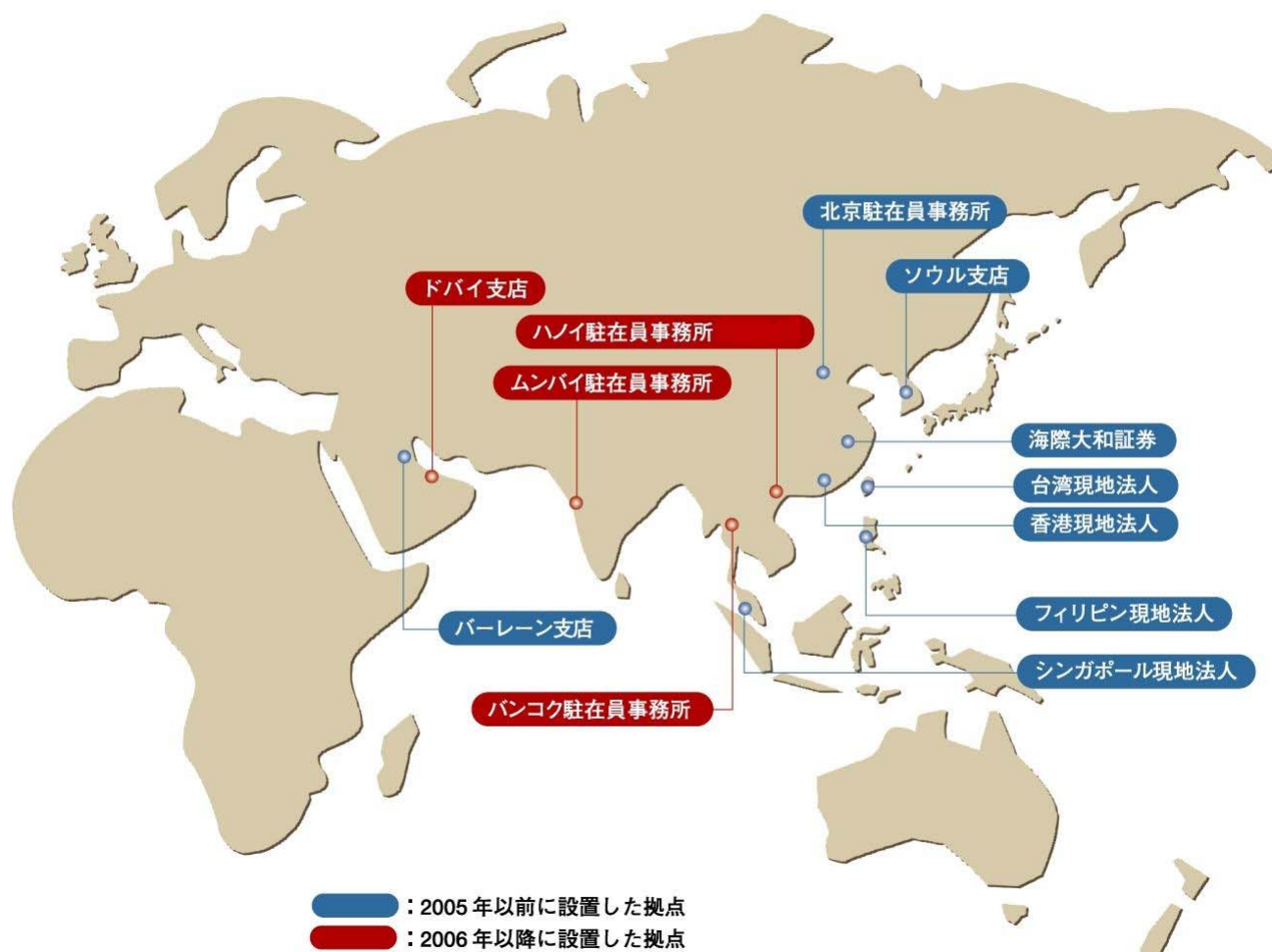
5年後

PE*・PEファンド等への投資：
1,000億円規模

大和証券SMBC アジア地域のネットワーク

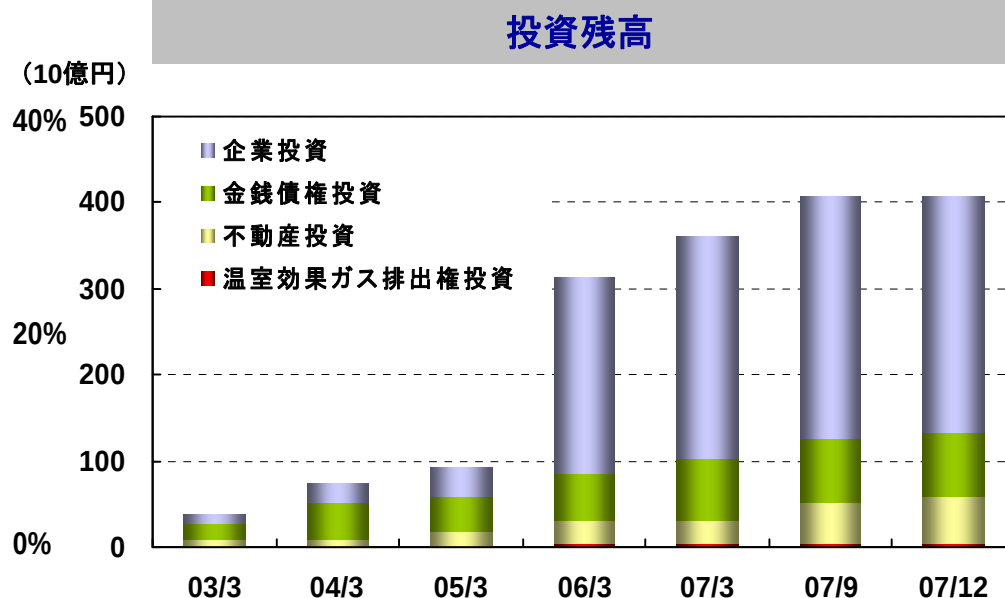
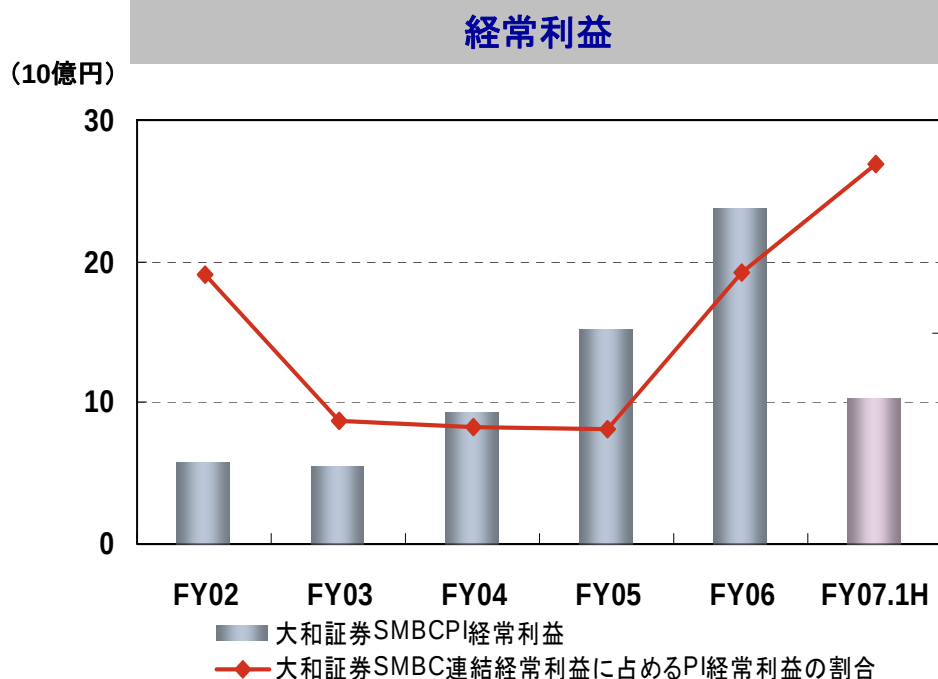
PASSION
FOR THE
BEST

大和証券SMBC アジア地域におけるネットワーク拡大



大和証券SMBCプリンシパル・インベストメンツ

投資枠を4,000億円から5,000億円に引き上げ



2007年度のトピックス

- 丸善株式の一部を大日本印刷へ譲渡
- 北海道中小企業チャレンジファンド組成
- HMVジャパン、HMV Retail Limitedの全株式を取得
- 旭川グランドホテルの全株式を取得

	07.12月末現在(07.9月末比)	
投資残高合計:	約 4,080億円	(+10億円)
企業投資:	約 2,750億円	(▲60億円)
金銭債権投資:	約 740億円	(－)
不動産投資:	約 550億円	(+70億円)
温室効果ガス排出権投資:	約 40億円	(－)

資産運用業務

大和投資信託

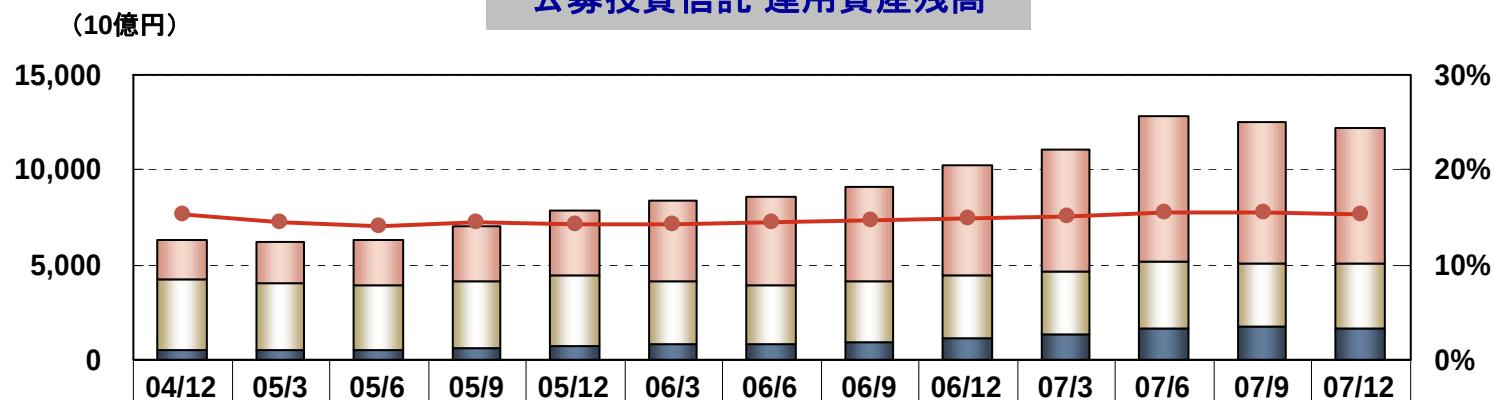
Daiwa Asset Management

大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

グループ内に2つの資産運用会社を持つ強みを発揮

公募投資信託 運用資産残高



大和投資信託（株式投信）	2,064	2,118	2,452	2,879	3,482	4,238	4,569	5,026	5,887	6,388	7,584	7,361	7,138
大和投資信託（公社債投信）	3,724	3,557	3,409	3,554	3,706	3,335	3,152	3,128	3,294	3,277	3,560	3,351	3,409
大和住銀投信投資顧問	503	499	485	588	709	818	818	967	1,105	1,360	1,648	1,764	1,695
大和証券グループ* シェア	15.3%	14.6%	14.1%	14.4%	14.3%	14.4%	14.5%	14.6%	14.9%	15.2%	15.6%	15.5%	15.3%

*大和投資信託＋大和住銀投信投資顧問

投資顧問 契約資産残高

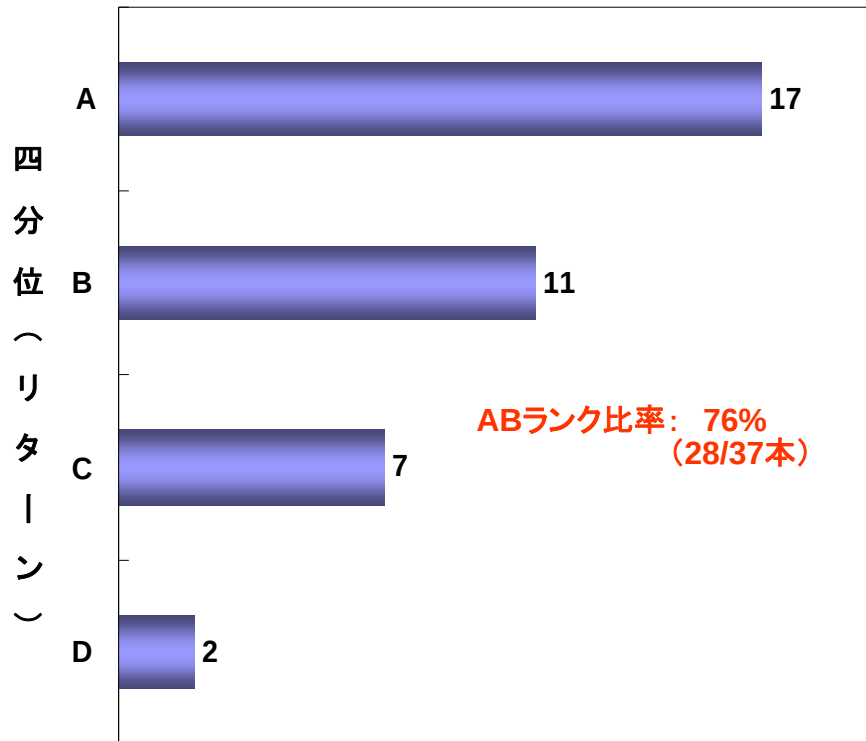
(10億円)	04/12	05/3	05/6	05/9	05/12	06/3	06/6	06/9	06/12	07/3	07/6	07/9	07/12
大和住銀投信投資顧問	3,194	3,158	3,201	3,715	4,106	4,070	3,913	4,106	4,292	4,374	4,555	4,220	3,919

大和投資信託 日本株ファンドの好調なパフォーマンス

PASSION
FOR THE
BEST

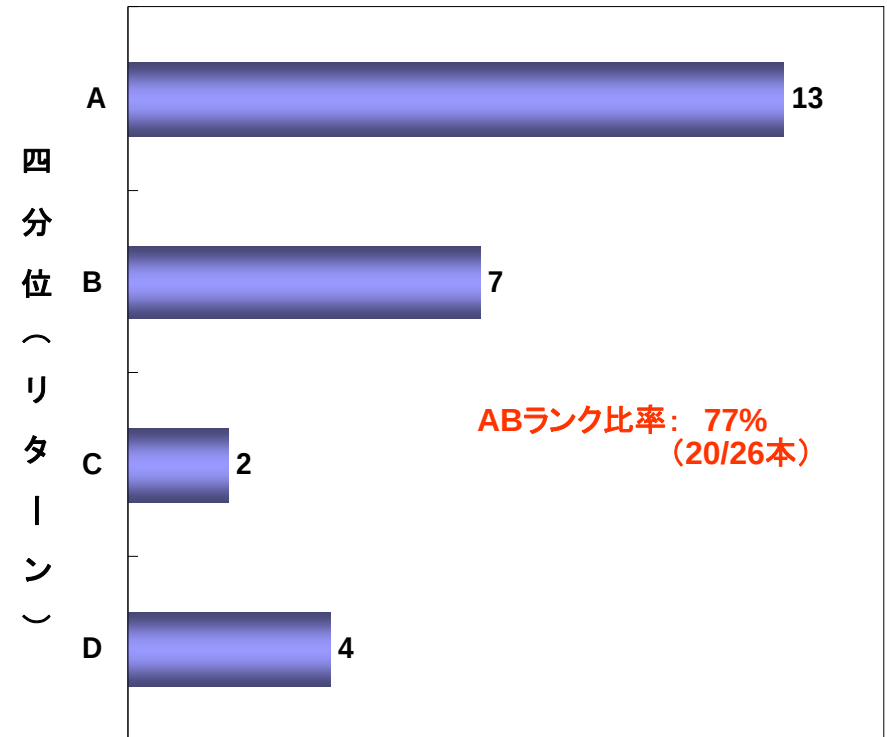
国内株式アクティブファンド(期間:1年)

(07/9末)



国内株式アクティブファンド(期間:3年)

(07/9末)



- * 大和ファンド・コンサルティングの評価分類(国内株式型ブレンド、グロース、バリュー、大型、中小型、組入比率変動型、テーマ型)を使用
(ただし、テーマ型のうち大和投信が運用する地域ファンドは除く)
- * 各評価分類ごとに各ファンドをA~Dまでの四分位にランク付けし、大和投信の運用ファンド本数を記載

トピックス

大和証券グループのIT戦略

日経BP社 第2回「企業のIT力」ランキング（07/12/10） 総合第3位

順位	企業名
1	松下電器産業
2	トヨタ自動車
3	大和証券グループ本社
4	住友電気工業
5	セブン-イレブン・ジャパン
6	キャノン
7	日立製作所
8	損害保険ジャパン
9	東京海上日動火災保険
10	リコー
11	富士フイルム
12	富士ゼロックス
13	ローム
14	村田製作所
15	昭和シェル石油
16	大阪ガス
17	アサヒビール
18	ホンダ
19	日産自動車
20	東芝

大和証券グループのIT戦略の特長

- 大和証券グループ本社100%出資のシステム子会社を保有
- グループ一体となったIT戦略の策定および実行
- グループの全体最適を考えたアロケーション(ヒト・モノ・カネ)の実施
- グループ会社間でのIT要員の交流による人材育成と意思疎通の活発化

就職人気ランキング

- 週刊ダイヤモンドランキングで、男子、女子ともに過去最高の順位を獲得。
- 日本経済新聞ランキングでは、総合20位へと大きく上昇し、当社過去最高を記録。
- 日本経済新聞ランキングでは、証券業界全体でも過去最高を記録。

週刊ダイヤモンド(2/9号)「就職先人気ランキング」

<<文系男子:金融機関上位>>

企業名	総合順位
三菱東京UFJ銀行	2
東京海上日動	5
三井住友銀行	7
大和証券グループ	9 (19)
三菱UFJ信託銀行	11

<<文系女子:金融機関上位>>

企業名	総合順位
東京海上日動	1
三菱東京UFJ銀行	2
三井住友銀行	8
三菱UFJ信託銀行	9
みずほフィナンシャルグループ	14
大和証券グループ	20 (31)

* ()内数字は前年順位

過去最高！
証券NO.1！

日本経済新聞(2/8号)「就職人気ランキング」

<<金融機関上位>>

企業名	総合順位
三菱東京UFJ銀行	2
東京海上日動	7
みずほフィナンシャルグループ	8
三井住友銀行	12
大和証券グループ	20 (34)
野村證券	22

<<ご参考>>

男子	18 (34)
女子	24 (35)

* ()内数字は前年順位

過去最高！
証券NO.1！

社員満足度の向上

企業価値の向上は社員とそのモチベーションにかかっている

- プライベートの充実と業務効率の向上: 19時以前退社の励行
- 社長賞の導入(年2回): 家族を招待して一流ホテルでの表彰式
- 52年ぶりの本社移転: 最高の立地、最新鋭のオフィス環境
- クールビズの実施



● 出産・育児をサポートする各種制度について、社内制度から国の支援制度に至るまで分かりやすく解説。男女問わず全社員に配布。

より女性が輝ける会社に

- 女性活躍支援プランの拡大
 - 結婚準備休暇、ファミリー・デイ休暇
 - プロフェッショナルリターンプラン
 - 勤務地変更制度
: 結婚や配偶者の転勤等に合わせて勤務地の変更が可能
- 育児支援制度の充実
 - 育児休職: 子供が3歳になるまで取得が可能
 - 時間外労働の免除
: 小学校3年修了まで残業なし(法的期間: 3歳まで)
 - 時間外労働の制限
: 小学校卒業まで一定時間を越える残業なし(法的期間: 小学校入学まで)
 - 保育施設費用補助: 1ヶ月に2万円を上限に補助
 - 第3子以降の子供誕生に200万円の出生祝金

大和証券グループ本社、大和証券、
大和証券SMBCの3社が
「均等推進企業表彰」で
「東京労働局優良賞」を受賞！

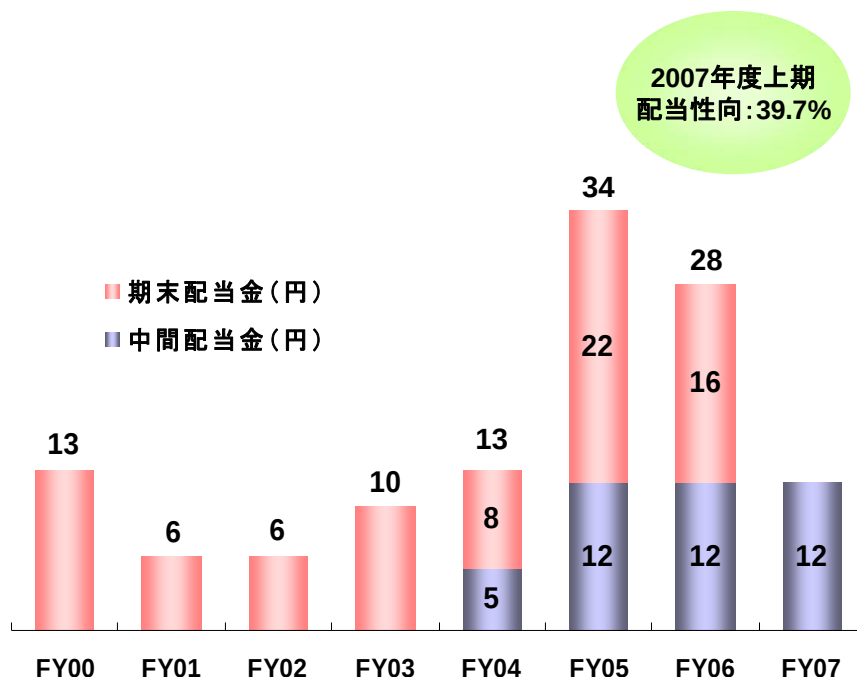
● 執行役社長 鈴木茂晴は、
日本経済団体連合会の
「少子化対策委員会」の
共同委員長を務めています。

資本政策

配当性向30%を基準

⇒ 資本政策と照らし合わせ、状況に応じてより積極的な株主還元を実施

大和証券グループ本社 配当金



※ 2004年度に中間配当制度を導入

自己株式取得枠の設定について

- 株式総数 : 2,500万株(上限)
- 取得価額総額 : 250億円(上限)
- 取得期間 : 2008年1月31日～2008年3月24日
- 取得目的 : 経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および株主還元の実施

<<ご参考: 前回の自己株式取得>>

- 株式総数 : 2,500万株
- 取得価額の総額 : 273億円
- 取得期間 : 2007年8月21日～2007年9月20日



大和証券グループ本社 IR室

TEL: 03-5555-1300 FAX: 03-5555-0661

E-mail: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

URL: <http://www.daiwa-grp.jp/ir/>